

■ジャガイモ 多様な品種を楽しむ

休眠の明けた芽は5度程度で活動が始まるため、早植えして発芽した芽は遅霜の被害を受けません。生育適温は10～23度で、冷涼な気候を好みます。

【品種】

ホクホクした粉質の「男爵薯」「キタアカリ」や、アンデスの栗ジャガと呼ばれる「インカのめざめ」、ねっとりした粘質の「メイクイン」「レッドムーン」など料理に向けた品種を選びましょう。秋作を行うには「デジマ」「ニシュタカ」など休眠の浅い品種を使います。

【畑の準備】

植え付け2週間前に1平方m当たり苦土石灰50gを施しよく耕し、1週間前に、畝間60～70cm、深さ15cmの溝を掘り、畝1m当たり普通化成肥料100gと堆肥1kg程度を施し、土を戻してよく混ぜておきます(図1)。

【植え付け】

種イモの大きさは1個30gくらいが良く、大きいイモは各片に頂部に芽が付くように3～4片に縦切りします(図2)。切り口は、日陰で短時間乾かしておきます。元肥の上に少し土を戻し、種イモの切り口を下にして、株間30cmに植え付け、7～8cmの覆土をします。マルチ栽培をすると雑草を防ぎ、地温が上がるため収穫期が1週間程度早まります。この場合、種イモを植え付け後、黒色ポリフィルムを張り、芽先がフィルムを持ち上げたら、フィルムを破り上に出します。なお、発芽後の遅霜被害対策として、不織布のべた掛けがお勧めです。

図1 畑の準備

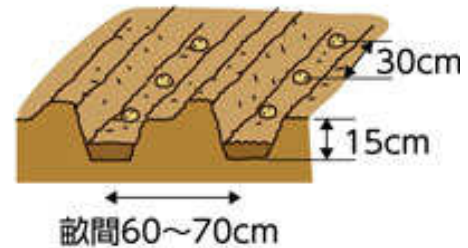


図2 種イモの切断

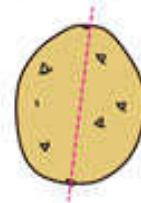


図3 芽かき



図4 追肥・土寄せ

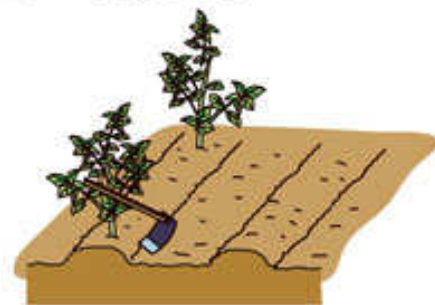


図5 収穫



【芽かき】

芽が 10cm くらいに伸びた頃、強い芽を 2 本残して他はかき取ります(図 3)。

【追肥・土寄せ】

芽が 15~20cm の頃、畝 1m 当たり普通化成肥料 50g を畝の両側にまき、5cm 程度の厚さに土寄せをします。2 回目の土寄せは同じようにつぼみが付いた頃に行います。土寄せは十分し、イモの露出を防ぎます(図 4)。マルチ栽培ではマルチの裾を上げて追肥をします。

【収穫】

開花後 2~3 週間で新ジャガを楽しめますが、葉が枯れ始めてから掘り取れば充実したイモになります。晴天が続いた日にイモを傷付けないように掘り取ります(図 5)。イモは光で緑化するため冷暗所で保存します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

板木技術士事務所 ● 板木利隆